会報 JAMT
JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者　宮島喜文
編集責任者　深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722　FAX (03) 3768-6722
ホームページ https://www.jamt.or.jp

P1 徳島県臨床検査技師会　「大規模災害時における災害支援活動に関する協定」を徳島県と締結
P2 都道府県技師会　各地での取り組み（茨城県編）
P3 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介

## 徳島県臨床検査技師会
# 「大規模災害時における災害支援活動に関する協定」を徳島県と締結

日本臨床衛生検査技師会　理事（徳島県）　藤田 望

徳島県臨床検査技師会（徳臨技）は令和５年３月16日、徳島県庁にて徳島県と「大規模災害時の支援活動に関する協定」を締結いたしました。災害発生時には、徳島県から「臨床検査支援要請書」による要請を受け、病院検査室の機能維持のための人員派遣や機器・試薬などの提供、避難所でのDVT（深部静脈血栓症）検査等を支援する内容となっております。技師会として県との災害協定締結は、山梨、群馬に続いて全国３例目となります。

本協定で結んだ支援活動を行うため、徳臨技は災害発生時に徳島県立中央病院ER棟（令和５年５月完成予定）に災害対策本部を速やかに組織し、設置します。徳臨技災害対策本部役員には技師会活動にも携わり、管理職などを経験後、一線を退いた役職定年者または再雇用者等を任命いたします。これは、技師長など現役管理職は、所属する医療機関で検査業務を指揮する必要があるためです。また、発災後直ちにDMAT資格を持つ会員を県庁に派遣・常駐させ、県からの要望を含めた情報収集を行い、徳臨技災害対策本部との情報交換を行います。

このように記載しますと協定・マニュアル作成まで順調であったかのように感じる方もいらっしゃるかと思いますが、徳島県は南海トラフで甚大な被害が想定されているにも関わらず、災害対策は遅々として進まない状況でした。今回、大きく動きだすきっかけとなったのは日臨技との協定締結であり、徳臨技・中尾会長の発想の転換であると考えております。

中尾会長は県との協定締結について次のようにコメントをされております。

「組織・マニュアル・県技師会会員のコンセンサスなど、すべてが揃ってから『さあ、県に協定締結を働きかけよう』という順番を想像されるかもしれませんが、それは逆だと思っています。県との協定は、災害対策の『骨組み』であって、それは決して最後の仕上げではありません。実際、徳島県は組織づくりや、マニュアル作成、派遣できる人の確保などはまだまだ始まったばかりです。

協定書の内容は実際の運用による拡張性を持たせるために、必要最小限の内容にとどめています。重要なことは県のお墨付きを得たということです。この『お墨付き』には、技師会員も市中病院も従わざるを得ない強いパワーを持っていますので、このパワーを利用して、徳臨技としての災害対策の具体的内容についてスピード感をもって決めていきたいと考えています。このように災害対策立案の最後ではなく、最初に協定締結に踏み切ったのはこういう考え方に基づいた判断です。」

この判断により協定締結にあたり、県職員でもある元木副会長（徳島県立中央病院）を通じ、徳島県保健福祉部医療政策課広報医療室に対して働きかけを行いました。県からは他県の協定内容を参考にしたいとの意見をいただいたことより日臨技深澤専務よりすでに協定を締結されていた群馬県臨床検査技師会（群臨技）井田会長をご紹介いただき、相談させていただきました。「行政は他県の状況を考慮する」と伺っていた通り、徳島県から群馬県への連絡後は、スムーズに協定締結まで行うことができました。

締結式では知事より県の災害対策訓練へ技師会として参加していただきたいとのお話がありましたが、県中病院長へER棟に本部設置の許可をいただいた時にも条件として総合メディカルゾーン本部合同災害対策訓練への参加要請をいただいております。この総合メディカルゾーンとは、徳島大学病院と県立中央病院が隣接し、連絡橋でつながっているという立地条件を最大限活用し、災害時にも医療救護活動ができるよう県民医療の拠点として連携整備がされております。今回の災害対策訓練の参加要請も「県のお墨付き」パワーの影響と考え、この良い流れのまま災害に備えた体制構築に尽力していきたいと考えております。

最後になりましたが、井田会長をはじめ、群臨技の皆様に多大なるご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。群臨技より徳臨技が引き継いだ流れが皆様の県にもつながりますよう祈念いたしております。

# 都道府県技師会　各地での取り組み（茨城県編）

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、茨城県臨床検査技師会で地域医療・社会貢献型人材の育成、連携と組織強化を目的に活動している“水戸塾”　について紹介いたします。

## 茨臨技人財育成部会“水戸塾”紹介

公益社団法人　茨城県臨床検査技師会
副会長(学術)　八杉 晃則
（株式会社日立製作所 日立総合病院）

コロナ禍でコミュニケーションの主たる手段がwebとなり、各会議、研修会および学会の開催形式が多様となりました。メリットも多い反面、大人数の会議には不向きであったり、表情、雰囲気を読み取りにくいデメリットもあります。これから学校を卒業して入職する方々にとっては当たり前の環境ですが、対面式に慣れている昭和世代だと物足りなさを感じます。今後もメリット・デメリットを理解して使い分けて活用していくことになります。

そこで今回はグループワークを中心に活動を行ってきた“水戸塾”について述べる機会を与えていただきましたので、発足の経緯から活動内容を紹介させていただきます。

水戸塾は直井芳文氏(茨臨技元会長)のもと山元隆氏が初代塾長として2010年に発足しました。正式名称は「茨臨技人財育成部会水戸塾」、目的は地域医療・社会貢献型人材の育成、連携と組織強化を掲げています。2017年には　“みんなで考えよう「臨床検査のプロモーション」”と題し、第66回日本医学検査学会特別企画として公開水戸塾を開催させていただきました。参加可能な都道府県技師会の代表者が5～6名のグループとなり、想像力と創造力を膨らませ臨床検査技師の将来像について語らい、有意義なものとなりました。記憶に残っている会員の方もいらっしゃると思います。そして2018年に塾長のバトンは私へ渡されました。かなりハードルが高く不安に感じましたが「自分の色を出せばいい」という初代塾長からの言葉に背中を押され決意した時の事を覚えております。臨床検査技師として必要な知識や技術的な部分は学術部が担当しております。仕事を継続する上で必要なことは何なのか？水戸塾で何をすべきか考えたとき「人間味を豊かにし、感性豊かな人材の育成」と思い立ちました。水戸塾のスタイルを継承しつつの新生水戸塾とすべく“水戸塾十一策”を提唱しました。主に入社一年目の会員を中心に十一策からテーマを決め、グループワーク研修を行っていくことにしました。ここ数年はコロナ禍で開催を見送っておりますが、毎年『チームの特性を知る』『創造力を膨らます』といったテーマで開催してきました。仕事はひとり最適ではなく、全体最適で行うもの、ときに発想力、創造力が必要であること、これらをグループワークで体感、理解する。また、研修会を行う際のポイントは、真実が一つでも、答えはひとつではないこと、決めつけないこと、否定しないことです。そして昨年、第40回茨城県臨床検査学会を参加型で開催し、中堅会員を対象としたシンポジウム『医療現場が求める臨床検査技師像(検査室)とは』と題し、ブレインストーミング型のグループワークを行いました。内容はタスク・シフト/シェアを含め、①現在実施しているもの②求められてるニーズ③将来のニーズを、各々始めた(始める)きっかけ、課題、必要な取り組みの内容を挙げグループの意見として発表報告していただきました。他施設の状況や今後の検査室の取り組むべき運営、活動について参考になりました。久しぶりの参加型学会ということもあり、会員同士の会話も弾み盛会となりました。活動としてはまだまだ十分とは言えず試行錯誤して実施しておりますが、少しでも会員の皆さまが心豊かになることを切に願っております。

水戸塾
活動の様子

学会
シンポジウム
の様子

会報JAMTに掲載する都道府県技師会での取り組みや、検査技師の活動に関する原稿・情報を募集しています。ご投稿は当会事務局までメールでお寄せください。

## 当会では国民の皆様に臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため 季刊誌『ピペット』を発行しています。

2023 冬号（vol.38）にも読後感想として、たくさんの応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。

- 認知症と音楽。音楽に限らず家にこもらず、なんでもトライすることが必要と思った。（埼玉県・男性）
- The interview 聞き手が臨床検査技師さんというのが斬新に感じました。（埼玉県・男性）
- 突然の大病でビックリしていましたが、待合室で『ピペット』を見ていたら、だんだんと心が落ち着き安心して検査を終了することができました。（大分県・男性）
- 20年ぶりくらいの健診で心臓はバクバクでしたが、検査技師さんがやさしく対応してくださり、無事終了できました。（佐賀県・女性）
- エコーをしてくれる人も臨床検査技師っていうんだ、と初めて知りました。耳下腺のはれでエコーをあてた時、すごく丁寧に時間をかけてみてくれたので安心しました。（宮城県・女性）
- 臨床検査技師が患者さんの身近な存在として認識されるといいなと思います。（岐阜県・女性）
- 退職して5年、家族の付き添いの待合室で懐かしい『ピペット』を見つけうれしく読ませていただきました。今後も患者さんに寄り添う臨床検査技師の活躍に期待しています。（山口県・女性）

**『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。**

ご協力いただける方は右のURLから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。

過去号をご覧になりたい方はQRコードからも閲覧いただけます。

https://www.jamt.or.jp/books/pipette/

Fax: 03-3768-6722

mail: pipette@jamt.or.jp

（編集後記）例年より早く３月のうちに高遠の桜（長野県・伊那市）が見頃を迎えたと思っていたところ、あっという間に　チューリップもネモフィラも芝桜さえ咲き誇りました。私の住むところでは花桃や藤の名所もあり、毎年連休から５月半ばに観光客が多く訪れるのですが、今年はもう花桃は満開を過ぎてしまいました。ハナミズキやドウダンツツジも満開です。果樹などは早く実がついてしまうと霜害が心配だそうです。今年は田植えも早いかもしれません。果物野菜など順調に育ってくれることを祈ります。急激な温度変化は体調不良をもたらしがちです。皆様ご自愛を。（宮原）